

## 沖縄におけるクルーズ観光の現状と展望\*

The present statement of cruise tourism and further view of it in Okinawa \*

小島 肇\*\*

By Hajime KOJIMA\*\*

### 1. はじめに

わが国でも、2006年よりクルーズイヤー<sup>1)</sup>が展開され、クルーズ船を活用した観光の振興が図られはじめています。クルーズ船を活用した観光は、クルーズ船の大型化に伴い一度に訪れる客数が多いこと、寄港地での滞在時間の制約から他の観光客と異なる上陸観光特性を有するなどの特徴がある。地域においては入域観光客、特に外航クルーズ船であればインバウンド客を一度に受け入れることが出来るクルーズ船の寄港を積極的に誘致している地域も少なくない。しかしながら、クルーズイヤーが3年目を迎えるにも関わらず、クルーズ船を活用した観光に関する研究は多くない。

今回報告する沖縄地域においては、1997年よりマレーシアに本社をおくスタークルーズ社が台湾発の定期クルーズ船を那覇港等に運航しているほか、不定期のクルーズ船の寄港も増加している。沖縄におけるインバウンド客の半数が、クルーズ船をはじめとする船舶によって訪れており、観光振興においてもクルーズ観光は重要となってきた。そこで、クルーズ観光を振興していくにあたり、沖縄におけるクルーズ観光の現状と展望について報告する。

なお、本報告で対象とするクルーズとは主に「船旅を楽しむことを目的として建造された比較的大型の船舶(数千トンから数万トン)を利用し、数日(1泊以上)から数ヶ月の期間を楽しむもの」である。また、「クルーズ観光」とは、クルーズ船を活用した観光は、クルーズ船に乗船中の各種活動と寄港地での上陸観光とで構成されており、本論文ではその両方を含んでいる。

### 2. わが国におけるクルーズ観光

#### (1) わが国のクルーズ船

日本船籍の主なクルーズ船としては、郵船クルーズ<sup>2)</sup>の飛鳥Ⅱ、商船三井客船<sup>3)</sup>のにつぼん丸、日本クルーズ客船<sup>4)</sup>のぱしふいっくびいなど、日本チャータークルーズのふじ丸等がある。そのなかでも最大は飛鳥Ⅱで乗客定員は720名である。日本船籍のクルーズ船は主に横浜、神戸、名古屋などを基点としたクルーズを運航している。世界一周といった長期間のクルーズのほか、お祭りなどにあわせて運航するワンナイトクルーズなどニーズに応じたコース設定を行っている。

なお、これらのクルーズ観光は、基点が国内の主要港であるため、乗客は日本人が多くなっている。

#### (2) クルーズイヤー

2006年からJATA(日本旅行業協会)クルーズ推進部会がクルーズイヤーを設定し各種イベントやキャンペーン等を展開している。クルーズイヤーの目的は、近年消費者から大きな注目を浴びているクルーズ市場の需要喚起にある。2006年1月に横浜にて開催した「ジャパン・クルーズ・シンポジウム&クルーズイヤーキックオフパーティ」を皮切りに各種取組みがなされており、2008年まで継続して実施されている。JATA2008クルーズイヤー実行プロジェクトチームによると、その間に日本のクルーズ市場は約16万人(2004年実績)から18万5千人(2006年実績)までに成長している。

\*キーワード: 観光・余暇活動

\*\*正員、工修、

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

(沖縄県那覇市おもろまち2-1-1)

那覇第2地方合同庁舎2号館、

TEL098-866-1906、FAX098-861-9916)



出展: クルーズイヤー2006HPより

図-1 クルーズイヤーのロゴ

### (3) 地域からみたクルーズ観光

クルーズ船を活用した観光は、クルーズ船の大型化に伴い一度に訪れる客数が多いこと、寄港地での滞在時間の制約から他の観光客と異なる上陸観光特性を有するなどの特徴がある。地域としては、如何にしてクルーズ船を誘致し、クルーズ客の受入態勢を確保するか、そしてクルーズ客の満足度を高めるかが、クルーズ観光による地域の振興には重要である。

沖縄地域においては、1997年よりマレーシアに本社をおくスタークルーズ社が台湾発の定期クルーズ船を那覇港等に運航しているほか、不定期のクルーズ船の寄港も増加している。クルーズ雑誌にもあまり記載されないため、全国的にはあまり知られていないようであるが、沖縄は外航クルーズ船が定期的に寄港している稀な地域である。さらに、JNTO資料によると、台湾や中国からの観光客は韓国に次訪日客数となっており、今後も増加する市場であると見なすことができる。もしくは増加させるべき市場である。したがって、今後注目すべき台湾や中国等からのクルーズ客について、クルーズ観光の特性を整理し、地域振興に結びつけるための方策を検討することが、地域からみたクルーズ観光に求められているといえよう。

## 3. 沖縄におけるクルーズ観光

### (1) 沖縄におけるクルーズ観光の位置づけと現状

沖縄は亜熱帯・海洋性気候風土の下、美しい自然景観、独特の伝統文化や歴史等は、観光資源として大いに魅力があり、現沖縄振興計画においても観光産業がリーディング産業として位置付けられている。また、近年、沖縄には国内外からの不定期クルーズが多数寄港するとともに、2007年には一時休止していた台湾から那覇港等への定期クルーズが再開されるなど、クルーズ船の寄港地として人気を博している。沖縄県におけるクルーズ船が入港している港は図-2に示すとおりである。ただし、座間味港については、クルーズ船が接岸できる岸壁がないため、沖合いでの錨泊となっている。また、近年の入港実績は図-3に示す通りである。



図-2 沖縄県における主なクルーズ船寄港地

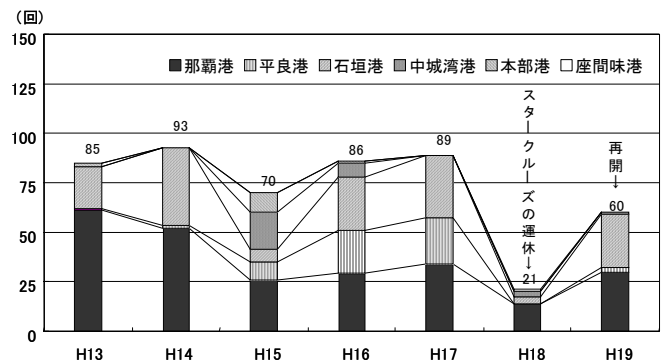


図-3 沖縄県におけるクルーズ船寄港実績

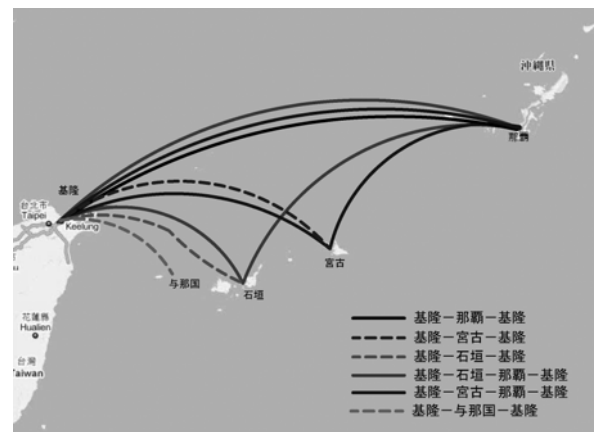


図-4 沖縄における定期クルーズの寄港状況

表-1 沖縄における不定期クルーズの寄港状況

| 月 日           | 船 名            | 寄港地 | 総トン数 (G/T) | 定員 (人) | 仕出し地   | 仕向地    |
|---------------|----------------|-----|------------|--------|--------|--------|
| 1 2008/2/2    | ドイツシュランド       | 那覇  | 22,400     | 548    | シンガポール | 上海     |
| 2 2008/2/10   | ラブソディ・オブ・ザ・シーズ | 那覇  | 78,491     | 2,435  | 香港     | 基隆     |
| 3 2008/2/23   |                |     |            |        |        |        |
| 4 2008/3/4    |                |     |            |        |        |        |
| 5 2008/3/14   | シルバー・シャドー      | 那覇  | 28,258     | 382    | 上海     | 基隆     |
| 6 2008/3/24   |                |     |            |        |        |        |
| 7 2008/2/26   | スタテンダム         | 那覇  | 55,451     | 1,266  | サイパン   | 長崎     |
| 8 2008/3/22   | ノーティカ          | 那覇  | 30,277     | 684    | 神戸     | 基隆     |
| 9 2008/4/4    | コスタ・アレグラ       | 那覇  | 28,400     | 1,000  | 基隆     | 神戸     |
| 10 2008/6/25  | ダイヤモンドプリンセス    | 那覇  | 116,000    | 2,670  | 基隆(上海) | 上海(基隆) |
| 11 2008/10/22 |                |     |            |        |        |        |
| 12 2008/10/12 |                |     |            |        |        |        |
| 13 2008/11/1  |                |     |            |        |        |        |
| 14 2008/11/13 |                |     |            |        |        |        |

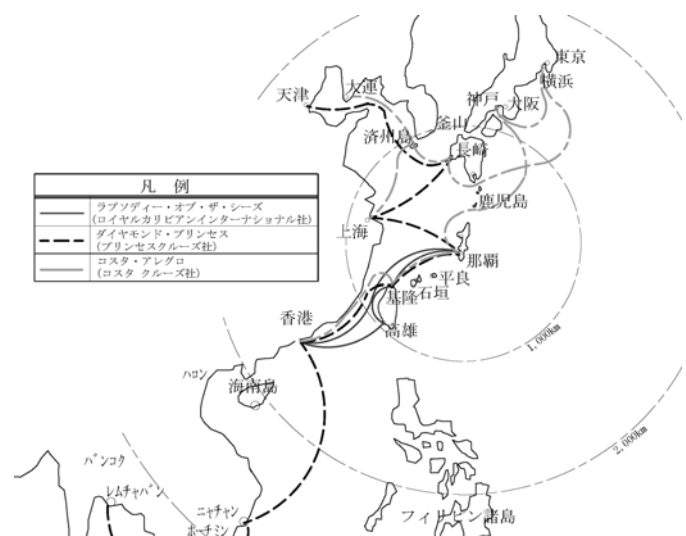


図-4 沖縄における不定期クルーズの寄港状況

## （２）沖縄におけるクルーズ観光の受入態勢

クルーズ観光の需要拡大とクルーズ船の誘致を図るため、各地区において船舶運航事業者、港湾関係者、観光事業者及び関係官庁等をメンバーとした「地方クルーズ振興協議会」が設立されている。沖縄においても「沖縄県クルーズ促進連絡協議会」が設立され、官民一体となった取組みがなされている。

内閣府沖縄総合事務局では、沖縄の魅力的な観光資源を活用したクルーズ観光を活性化していくため、沖縄におけるクルーズ観光の現況を把握するとともに、関係者に対するヒアリングを行い問題点や課題、ニーズを抽出し、今後の沖縄におけるクルーズ観光活性化のアクションプランを提案している。さらに、このアクションプランのについてクルーズ客に対するアンケート調査を実施することによって検証を行っている。なお、このアクションプランは、有識者等からなる検討委員会での議論を踏まえてとりまとめ、その内容は沖縄県クルーズ促進連絡協議会にも報告を行っている。

## （３）沖縄におけるクルーズ観光アクションプラン

アクションプランは表-2のとおりである。表にもあるように、クルーズ観光の促進のための受入態勢強化においては、港湾関連施設をはじめとする施設（装置系）と入国審査の迅速化といった諸手続きやクルーズ客の利便性・満足度向上のためのサービス（制度系）の取組みが必要である。特に現在クルーズ船が接岸している岸壁は、貨物と供用施設となっているため、クルーズ船から上陸観光への移動において安全性、快適性に問題があるほか、C I Q等の諸手続きに必要なスペースも十分に確保できていない状況である。クルーズ船の主な寄港地である那覇港、石垣港等において旅客船ターミナルの整備が行われており、施設整備による早期の改善が望まれる。

また、クルーズ観光では、一度に多くの観光客が上陸観光を行うこと、寄港地での滞在時間の短く効率のよい観光を求めることなどの特徴から、市街地へのアクセスの改善、観光案内の充実・強化等が重要であるとし、アクションプランへ位置づけている。

表-2 沖縄におけるクルーズ観光アクションプラン

| 沖縄のクルーズ観光活性化の方針              |                        | クルーズ誘致のアクションプラン                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クルーズ船受け入れ体制の整備               | 旅客船埠頭や関連施設の整備          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業着手した旅客船埠頭の早期供用（那覇港・石垣港・本部港）</li> <li>・計画段階の旅客船埠頭の事業着手（平良港・中城湾港）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                           |
|                              | 旅客ターミナルの整備             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅客ターミナルの整備手法や管理運営方法に関する検討実施（那覇港・石垣港）</li> <li>・建物外観やフェンス等の付帯施設を含めた沖縄らしさの演出（那覇港・石垣港）</li> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインを考慮した人にやさしいターミナルの整備（那覇港・石垣港）</li> </ul>                                                                                                                                 |
|                              | ポートサービスの充実・強化          | 入国審査の迅速化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国人ノービザ等のクルーズ特区要請の継続実施（那覇港）</li> <li>・船社へ入国カード・ビザの適切貼付の指導徹底に対する要請実施（那覇港・石垣港）</li> <li>・入国管理局への海外臨船審査、沖臨船審査の継続の要請実施（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                      |
|                              |                        | 交通アクセスの充実・強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅客の利用者数に応じた旅客ふ頭と市街地を連絡する有料シャトルバス運行をバス会社へ提案（那覇港、石垣港）</li> <li>・旅客ターミナルにおけるクルーズ客へのモノレールの周遊券の販売（那覇港）</li> <li>・路線バスや離島連絡船等の公共交通機関利用券の販売（石垣港）</li> </ul>                                                                                                                                   |
|                              |                        | 両替・郵便サービスの充実・強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各港の受入組織による両替業務の実施（各港）</li> <li>・併せて切手の販売、投函サービスの実施（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                      |
|                              |                        | 通訳の充実・強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳ボランティア確保に向けた体制の強化（各港）</li> <li>・観光案内可能な通訳の人材育成（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                        |
|                              | 観光案内の充実・強化             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内の継続実施と旅客ニーズに合わせた情報提供（各港）</li> <li>・邦船では乗船しての観光案内、情報提供を積極的に実施（各港）</li> <li>・外国船では観光パンフレット（外国語）を船内配布する（各港）</li> <li>・乗船、船内、上陸の段階による観光情報の提供（各港）</li> <li>・市街地、商店街における外国語の案内表示の充実を関係機関へ要請（各港）</li> <li>・旅客ニーズに合わせた観光案内の可能な人材の育成（各港）</li> <li>・旅客の買い物ニーズに応じた商品の提供及び情報の提供（各港）</li> </ul> |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企画のツアー、商店街イベント等新たな観光情報発信の実施（各港）</li> <li>・初入港の外国船に乗船しての観光案内の実施（各港）</li> <li>・地元商店街、量販店等からの買い物情報発信の場の提供（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                                |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歓迎アトラクションは出港時に実施（各港）</li> <li>・歓迎アトラクションのバリエーションの増加（各港）</li> <li>・船の見送り時に見学者等市民の参加の促進（各港）</li> <li>・旅客のニーズにあった特産品販売の実施（各港）</li> <li>・南西諸島周遊型クルーズ時の各港で連携したストーリーのある歓迎アトラクションの企画（各港）</li> </ul>                                                                                           |
| 陸上観光地の連携                     | クルーズ旅行の普及推進活動          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
|                              |                        | クルーズ船の寄港情報の発信                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ船の寄港情報をWeb、メディアを通しての発信（各港）</li> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                     |
|                              |                        | クルーズ船の寄港情報の発信                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 国内外のクルーズ船の寄港促進を図る積極的な誘致活動の実施 | 積極的な誘致活動の実施            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
|                              | 外国船社に対するポートセールス        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・邦船船社への訪問回数を増やす</li> <li>・船社が参加する商談会、シンポジウム等への積極的な参加</li> <li>・船社の企画担当者の招聘</li> <li>・観光地の案内、地元発信型ツアー等の説明</li> <li>・ポートサービスの充実をアピール</li> <li>・タグ料金等の減免の実現に向けた協議</li> <li>・天候デリバティブの導入を協議・検討</li> <li>・企業インセンティブでの沖縄チャータークルーズの実施要請</li> </ul>                                             |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ商談会、クルーズコンベンションへの参加</li> <li>・外国船社の日本代理店への訪問</li> <li>・外国船社の担当者の招聘</li> <li>・外国船社に対して定期クルーズの実施検討の要請</li> <li>・東アジアクルーズの玄関口として日本寄港地（神戸、長崎、鹿児島）と連携した外国船社の寄港を誘致</li> <li>・DFSの利用が可能となるよう、関係機関へ要請</li> </ul>                                                                           |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ商談会、クルーズコンベンションへの参加</li> <li>・外国船社の日本代理店への訪問</li> <li>・外国船社の担当者の招聘</li> <li>・外国船社に対して定期クルーズの実施検討の要請</li> <li>・東アジアクルーズの玄関口として日本寄港地（神戸、長崎、鹿児島）と連携した外国船社の寄港を誘致</li> <li>・DFSの利用が可能となるよう、関係機関へ要請</li> </ul>                                                                           |
|                              | 周辺諸国に対する観光地としての沖縄のアピール | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
| 沖縄型クルーズ観光の提案                 | 沖縄型クルーズ観光の提案           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |
|                              |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ観光をアピールする県民向けの関連イベントの実施（各港）</li> <li>・市民クルーズを実施し、受け入れ体制の向上を目指す（各港）</li> <li>・旅行ジャーナリストを招聘し、沖縄クルーズのアピール（各港）</li> </ul>                                                                                                                                                              |



図-5 那覇港旅客船ターミナルの完成イメージ



図-6 石垣港旅客船ターミナルの完成イメージ

### (3) クルーズ客の行動特性

沖縄におけるクルーズ観光アクションプランを作成するにあたり、クルーズ客に沖縄での行動や評価を調査している。クルーズ客の行動特性については、国籍によって違いが見られた。中国本土からの旅行者は、クルーズ経験が比較的少なく、沖縄ではバスツアーに参加した人が多いのに対し、中国本土以外からの旅行者は、クルーズ経験が比較的多く、沖縄では個人で移動した人が多いことが分かった。また、沖縄での観光に対する満足度はいずれも高く、また沖縄への再訪希望もいずれも高かったが、中国本土からの旅行者は「次は飛行機を利用し、沖縄では買い物を楽しみたい」という人が多かったのに対し、中国本土以外からの旅行者は「次もクルーズ船を利用し、買い物のほかに芸能鑑賞も楽しみたい」との異なる意向を持っていることがわかった。中国本土からの旅行者に多かったバスツアーについては、クルーズ経験の多い人の増加に伴い減少することも考えられるため、引き続き中国旅行者の動向には注視が必要である。また、利用特性に応じた上陸観光商品の開発や観光地との連携が重要である。

## 4. 沖縄におけるクルーズ観光の展望

2008年のクルーズ船の寄港回数は前年を上回る予定である。また、昨年の定期クルーズ船の那覇港、石垣港への寄港再開に続き、今年は平良港への寄港が再開された。沖縄におけるクルーズ観光の振興に向けては、アクションプランの着実な実行が必要であると考え、関係各者の取組みを期待するところである。図-5に示している那覇港に整備中の旅客船ターミナルについては、2009年春には暫定供用される予定である。

また、沖縄においては、すでに那覇港と石垣港というような複数の港に寄港するクルーズも運航されている。今後は沖縄を基点とし、沖縄の複数の島のみなどを巡るクルーズ商品が開発されれば、沖縄におけるクルーズ観光もより多様化し、地域振興に結びつくと考えられる。これを沖縄で実現するためには、フライアンドクルーズとという形式になるが、その際に重要となるのは、全国や世界からクルーズ客を集めるための航空機との連携である。国内においては、「飛んでクルーズ北海道」として、につぼん丸が小樽港基点のクルーズ（小樽／利尻島／網走／礼文島／小樽）を運航しており、参考になると考えている。

## 5. おわりに

内閣府沖縄総合事務局としては、沖縄県クルーズ促進連絡協議会をはじめとする関係機関と協働し、引き続き沖縄におけるクルーズ観光を通じた沖縄の振興に努めていくこととしている。

### 参考文献

- 1) <http://www.cruise2008.jp/>
- 2) <http://www.asukacruise.co.jp>
- 3) <http://www.mopas.co.jp/>
- 4) <http://www.venus-cruise.co.jp/>